

【資料】

令和4年度食肉・食鳥肉病理組織検査担当者 育成研修会における症例報告(2)

松本 斉子

北海道帯広食肉衛生検査所（〒080-2465 帯広市西25条北2丁目1番地）

前号に引き続き、本研修会で検討された症例の中から3症例（99～101）の概要について報告する。

標本番号：99

提出標本：牛の空腸リンパ節

提出者：荒井千種 東藻琴食肉衛生検査所

動物：牛、黒毛和種、去勢、27カ月齢

生体検査所見：同一生産者の牛と比較し、軽度発育不良。

解体検査所見：空腸リンパ節の位置と一致して、被膜により周囲組織と境界明瞭な直径約25cmの硬結腫瘤を数個認めた。被膜下に残存した空腸リンパ節の断面は、皮質に直径約3mmの白色顆粒状病変が散在し、髄質は黄白色膿瘍に置換されていた（写真1）。両肺後葉において表面に隆起する直径約7cmの硬結腫瘤を各1個認めた。腫瘤と肺実質は硬い被膜により境界明瞭であった。腫瘤断面では、骨様隔壁で不規則に区画された黄白色膿瘍を認めた。空腸粘膜面の軽度発赤、肝門リンパ節および脾臓の軽度腫大を認めた。その他臓器に著変は認められなかった。

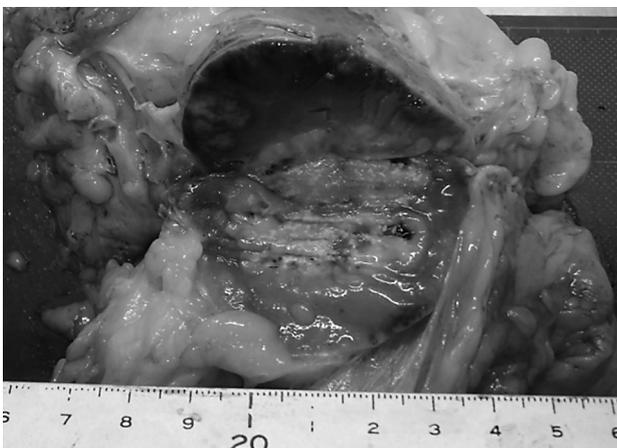


写真1. 牛の空腸リンパ節
皮質に白色顆粒状病変が散在し、髄質は黄白色膿瘍に置換されていた

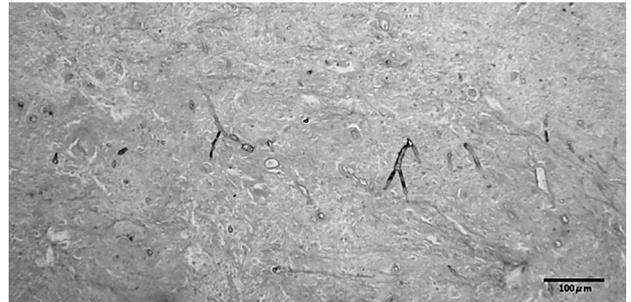


写真2. 牛の空腸リンパ節

菌糸は幅が不均一、隔壁を持たず直角または鈍角に不規則に分岐していた（グロコット染色）

病理組織所見：空腸リンパ節において、石灰沈着を伴う壊死巣を中心として類上皮細胞、好中球、リンパ球および形質細胞が浸潤し、その周囲に線維芽細胞の増生を認めた。壊死巣内にはPAS陽性、グロコット染色で黒染する菌糸を多数認めた。菌糸は幅が不均一、隔壁を持たず直角または鈍角に不規則に分岐していた（写真2）。PCRの結果、菌糸は*Rhizomucor pusillus*と判明した。肺腫瘤も同様の所見および菌糸を認めた。なお、チールネルゼン染色で抗酸菌は認められなかった。

病理組織診断名：*Rhizomucor pusillus*による空腸リンパ節の壊死性肉芽腫性炎

標本番号：100

提出標本：牛の筋肉

提出者：横山雄市 名寄保健所

動物：牛、ホルスタイン種、雌、31カ月齢

生体検査所見：著変は認められなかった。

解体検査所見：全身の皮下組織内、骨格筋内に直径0.5～3mm大、長さ不定の長管様硬結部を多数認めた。病変は胸部、頸部、腹部の諸筋で重度に、四肢および脊柱周囲の筋では中等度に認めた。心外膜下に結節状、樹枝状に増生する小血管様の硬結部を瀰漫性に認めた。断面では硬結部は心冠部心膜下を中心に、心筋内にも分布し

ていた。腎の皮髄境界部を中心に、心臓と同様の硬結部を多数認めた。

病理組織所見：筋の硬結部は筋に分布する小型の動脈を中心とした炎症細胞の浸潤と線維性組織の増生により形成されていた。病変中心部の動脈壁はフィブリノイド壊死を呈し、炎症細胞の浸潤により高度に肥厚し、内腔は狭窄あるいは閉塞していた（写真3）。炎症細胞はマクロファージおよびリンパ球が主体となる中、好酸球もみられた（写真4）。大型の動脈、毛細血管および静脈の壁には著変を認めなかった。他臓器の硬結部では程度の差はあるが、筋の病変と同様の炎症性的変化がみられた。

病理組織診断名：好酸球の浸潤を伴う結節性動脈炎

標本番号：101

提出標本：牛の肺

提出者：松本斉子 帯広食肉衛生検査所

動物：牛、ホルスタイン種、雌（経産）、190カ月齢

生体検査所見：著変は認められなかった。

解体検査所見：肺の表面および実質に直径約3～10

cm大のやや硬結感を有する腫瘤が多発していた。腫瘤の断面は軽度に膨隆し、色調は黄色～乳白色、髄様で一部は暗赤色を呈し、境界は比較的明瞭であった（写真5）。また、胸腔内にも約10 cm大の腫瘤を認めた。その他、肝変性と心膜炎を認めた。

病理組織所見：腫瘤内は軽度で大小不同で円形～楕円形の核を有する紡錘形の腫瘍細胞が束状に配列し、時に杉綾模様（herringbone pattern）をとりながら不規則に交錯し、密に増殖していた。それら腫瘍細胞の束状配列が縦断像、横断像、斜断像としてみられた（写真6）。また、腫瘍組織内には核分裂像が200倍で1視野あたり1～4個程度と比較的多くみられた。腫瘍組織の辺縁および内部には、軽度のリンパ球の浸潤が認められた。また、マッソントリクローム染色で、腫瘍組織を取り囲むように膠原線維が認められた。免疫染色では α SMA陽性、デスミン陽性、ビメンチン陽性であった。

病理組織診断名：平滑筋肉腫

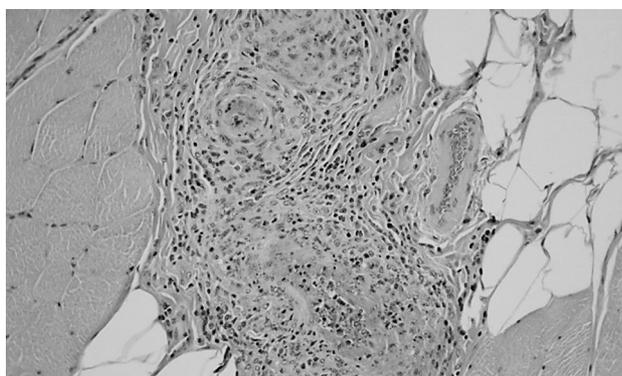


写真3. 筋の硬結部
小動脈壁のフィブリノイド壊死と炎症像に対し周囲の静脈壁、筋組織に炎症反応はみられない

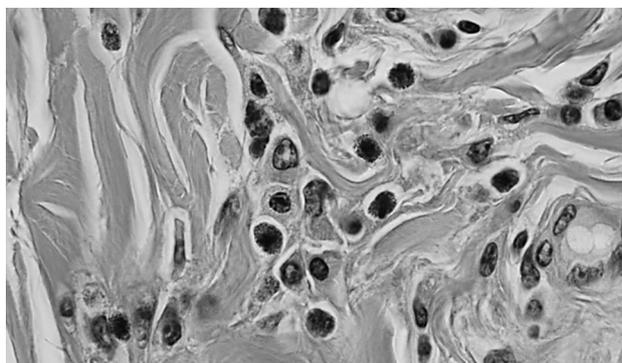


写真4. 炎症細胞
マクロファージ、リンパ球とともに好酸球が浸潤していた



写真5. 牛の肺
腫瘤の断面は軽度に膨隆し、色調は黄色～乳白色髄様で一部は暗赤色を呈していた

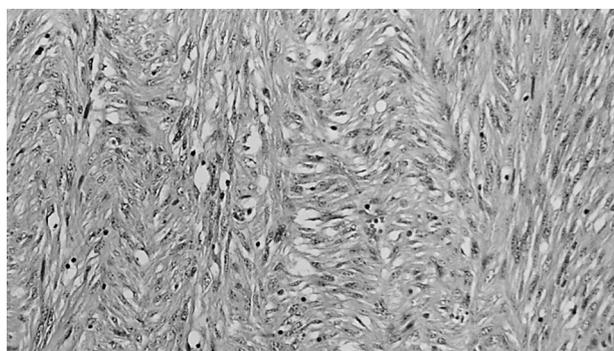


写真6. 牛の肺
腫瘤内は大小不同で円形～楕円形の核を有する紡錘形の腫瘍細胞が束状に配列し、不規則に交錯し、密に増殖していた